

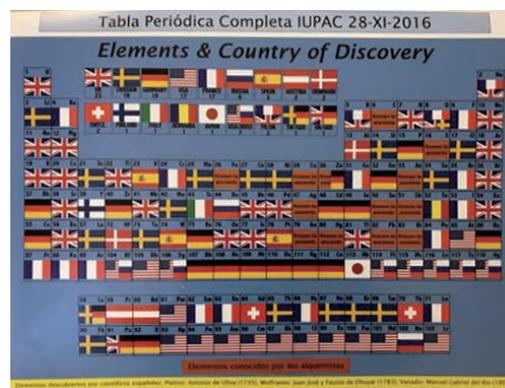
レクチャーツアー（スペイン）開催報告

初年度のイギリスでのレクチャーツアーののち、二年度の訪問国として選んだのは固体化学の発展が近年著しいスペインです。小生の都合の関係で、一週間のみの滞在という制約の中、マドリッドではComplutense University of Madrid (10月22、23、24日)、Universidad Carlos III (10月24日)、Universidad San Pablo (10月25日)、バルセロナのInstitut de Ciència de Materials de Barcelona (10月26、27日)を訪れ、「New opportunities of chemistry from multiple anion compounds」という演題で講演を行いました。スペイン化学会元会長で固体化学の権威のMiguel Alario Franco教授(写真上)のアレンジによって実現しました。

Complutense University of Madridはスペイン最大の大学で、Miguel以外に、Susana García-Martín教授、Emilio Morán教授、Regino Sáez Puche教授らとも親交を深めることができ、未発表の新しい酸水素化物の共同研究を開始することができました。Universidad San PabloのFlaviano García Alvarado教授とUniversidad Carlos III

のVárez-Álvarez教授(ともにMiguelのお弟子さん)にも歓待していただき、将来の共同研究の可能性を話すことができました。Miguelには、サプライズでリアル・マドリードの試合につれて行っていただいた(対戦相手に乾選手がいました)。彼は周期表のコレクターで、その一つに元素の発見国を表したものがあるが、私の訪問に合わせてニホニウムを追加した周期表(写真中)を作っていた。

10月26日には、電車でバルセロナに移動しましたが、ちょうどカタルーニャの独立運動に関して決断する日という最悪のタイミングとなり不安とともに向かいました(プチデモン州首相の罷免・議会解散は翌日の27日)。バルセロナは2回目で、独立旗は前回もみましたが、今回はそれとは別次元の世界でしたが、2日間ともほぼ郊外のInstitut de Ciència de Materials de Barcelonaで過ごしましたので特に怖い思いをすることはありませんでした。バルセロナでは、酸窒化物の第一人者であるAmparo Fuertes教授(写真下)にホストしていただきました。講演では、バナジウムを含む物質に関する内容があったので、スペイン人が発見した



■ 領域ニュース

元素として上述の周期表を早速みせようと思っていたのですが、独立運動の渦中で愚かなことであることに気づきやめました。Amparoとは、研究のことだけでなく、彼女が来年、代表としてバルセロナで開催する窒化物にかんする国際会議 ISNTについても話しました（小生は組織委員）。

短期間ではありましたが、密度の濃い滞在になりました。Miguelの学生が9月から3ヶ月小生の研究室に滞在するな

ど、人的なネットワークも広がりつつあります。6月終わりにカナリア諸島で開催されるスペイン化学会の会議 QIES に招待され、基調講演を行うことになっており、この機会にさらにネットワークを強化したいと考えています。



(文責 : A01 京都大学 陰山 洋)